

14日付、当地ガゼッタ・ド・ポーヴォ紙は、パラナ州カスカヴェル市で発生したエボラ出血熱罹患疑義者が検査を受けた結果、陰性であった旨報じているところ、概要を以下のとおり、お知らせ致します。

1. パラナ州西部カスカヴェル市に滞在していた西アフリカ・ギニア出身の男性（47歳）は10月8日から9日にかけて発熱、咳、喉の痛みを訴え、同市内の診療所を訪れ、エボラ熱罹患の疑いがあるとして隔離された上、10日午前、ブラジル空軍機でリオデジャネイロ市に搬送され、オズワルド・クルス財団研究所内の国立エヴァンドロ・シャーガス伝染病院（Instituto Evandro Chagas）に収容された。

2. 10日午前、アルトゥール・キオロ伯保健大臣が会見し、罹患疑義者には同時点で発熱、出血、下痢、嘔吐等エボラ熱特有の症状は認められないものの、罹患の有無の判断は会見から24時間以内に発表される旨、明らかにした。

3. 伯保健省は11日午前、エボラ罹患疑義者に行った一次検査の結果が陰性であった旨、発表した。併せて同人は国立エヴァンドロ・シャーガス伝染病院内において完全隔離されているものの、健康状態は良好であること、同人から血液サンプルを採取し、パラナ州ベレンにおいて二次検査が行われる旨、明らかにした。

4. アルトゥール・キオロ伯保健大臣は13日午後、二次検査の結果が陰性であった旨を発表し、同結果をもってブラジル国内にエボラ熱が到達したという可能性は排除された。また罹患疑義のあった男性は同日、退院が許可された。カスカヴェル市の診療所内で同人と接触があったとして体温等の継続検査対象となっていた市民、同人と収容施設で同居していた外国人に対する検査は中止されることとなった。

<留意事項>

・今回の伯国内のエボラ出血熱罹患疑義者については、伯国保健省より陰性と公表されていますが、同感染症は世界中増加しており、注意が必要です。詳しくは厚生労働省ホームページをご覧ください。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/ebola.html>

・ATMを狙った犯行は深夜又は早朝に行われることが多いため、利用時には十分ご注意ください。

・被害拡大防止のため、在留邦人等の皆様と（個人情報をお互いにふせた上で）情報を共有するためにも、当館（担当：警備班・領事班）へご連絡いただければ幸いです。